

KINGCA WEEK 2025 参加記  
大阪国際がんセンター 消化器外科 山本和義

2025 年 9 月 25 日から 27 日まで、韓国ソウルの Lotte Hotel Seoul で開催された KINGCA WEEK 2025 に参加いたしました。大阪国際がんセンターからは、私の他に消化管内科の上堂文也先生、消化器外科の牛丸裕貴先生、消化器外科に留学中の Lily Bae 先生（オーストラリア Monash 大学）の計 4 名で参加しました。発表は 2 日目（9 月 26 日）の口演セッション（Clinical Trial, Quality of Life & Nutrition）にて「Defining Low Muscle Mass in Gastric Cancer: Prognostic Value of Sex-Specific SMI and PMI Cut-offs from a 3,800-Patient Multicenter Cohort（胃癌患者における筋肉量低下の定義：3,800 例多施設共同研究から導かれた性別特異的 SMI・PMI カットオフ値の予後的意義）」と題した発表を行いました。胃癌治療における筋肉量評価については、韓国でも注目されており、同じセッション内で CT による骨格筋指標を用いている演題が 3 題ありました。

私は 2012 年、当時勤務していた国立病院機構大阪医療センターの上司である辻仲利政先生にお声掛け頂き、韓国ソウルにある Yonsei University Severance Hospital に 3 か月間留学する機会を頂いたことから、2012 年（KINGCA の前身 Korean Gastric Cancer Association Meeting）、2018 年、2019 年、2023 年、2024 年に続き、今回で 6 回目の参加となりました。毎回思うのですが、集約化された韓国の胃がん治療に基づく膨大なデータや、若手韓国外科医の新しい取り組みに大変刺激を受けました。

今回印象的だったのは、過去最大の現地参加人数で、海外からの参加者/演者が多い一方、日本人の発表・参加者が減っていたことです。

	KINGCA2024	KINGCA2025
参加者総数	788	893
韓国人参加者	521	597
海外参加者	267	296
国別 Abstract Submission		
中国	124	120
韓国	100	116
インドネシア	64	87
インド	53	33
日本	27	17
モンゴル	8	15
イタリア	6	8
ベトナム	4	8
ウクライナ	1	7

今回の学会のテーマが、“Shaping the Future of Gastric Cancer Treatment”ということでしたが、これまでずっと世界の胃がん治療をリードしてきた日本が、引き続き存在感を示し続けられるよう、また私自身もその一翼を担えるよう、今後も臨床・研究活動に励んで参ります。

最後に、韓国の旧友の先生方と、来年の JGCA（沖縄）での再会を約束し、岐路につきました。今回の参加は日本胃癌学会の助成によるものであり、厚く御礼申し上げます



